変額保険
グローバルミックス

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

月次運用レポート

2014年9月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

INVESTMENT MANAGERS
redefining / investment solutions

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式　50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 （特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社　ALM＆特別勘定運用部が行います。）	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A） 〈適格機関投資家私募〉	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A） 〈適格機関投資家私募〉	
債券　50%		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	

※　特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※　特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険
特別勘定の月次運用レポート （2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2014年9月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX（東証株価指数）が前月末比＋3．78%上昇の1，326．29ポイントで終了しました。
月前半は、米国長期金利の上昇を受けて円安米ドル高の動きとなったことなどから上昇しました。月後半は、日銀の追加金融緩和期待などを受けて上昇しましたが、その後は、円安などを背景に上昇する一方、利益確定目的の売りが加速するなど揉み合いとなりました。
業種別（東証33業種）では、円安進行を受けて「輸送用機器」（前月末比＋9．21%）が最も上昇した一方、海運市況の軟化観測から「海運業」（同△6．19%）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、月前半、米国の「イスラム国」への空爆拡大決定や、早期利上げ観測の高まりなどから下落基調で推移しました。月後半は、早期利上げへの警戒感が後退したことなどから上昇しましたが、その後、中国や欧州の景気減速懸念などを背景に下落基調で推移しました。NYダウは、前月末比△0．32%下落の17，042．90ドルで終了しました。
欧州株式市場は、月前半、ECB（欧州中央銀行）による追加金融緩和が好感されたことなどから上昇した後、EU（欧州連合）が対ロシア追加制裁の発動を決定したことなどを受けてやや下落しました。月後半は、スコットランドの住民投票で独立が否決されたことなどが好感されて上昇しましたが、その後、米国株式市場の下落や、ユーロ圏総合PMI（購買担当者景気指数）速報値の悪化などにより、大幅に下落しました。市場別騰落率は、英FT100が前月末比△2．89%下落、仏CAC40が同＋0．80%上昇、独DAXが同＋0．04%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、月前半、円安基調や国内株式市場の上昇などを受けて、金利は上昇（価格は下落）しました。月後半は、日銀の国債買い入れオペや財務省の入札の結果を受けて国債需給の逼迫が意識されたことなどから、低下（価格は上昇）基調で推移しました。新発10年国債利回りは、月末は0．525%となりました（前月末は0．490%）。
日銀はマネタリーベースが年間約60～70兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール（翌日物）は0．1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

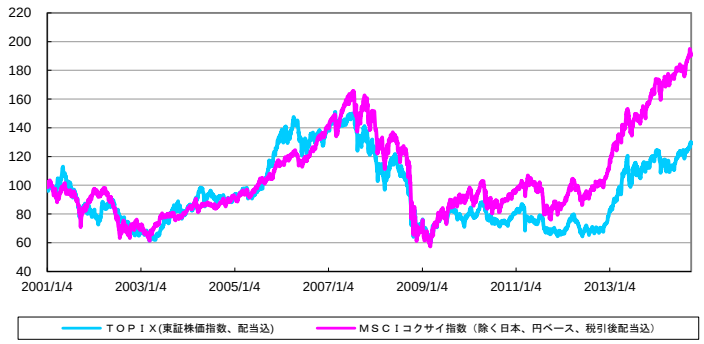
米国債券市場は、月前半、高値警戒感から売りが先行したほか、早期利上げ観測の高まりなどを背景に、金利は大幅に上昇（価格は下落）しました。月後半は、欧州の国債利回りの低下や米国株式市場の下落などを受けて、低下（価格は上昇）基調で推移しました。米10年国債利回りは、月末は2．489%となりました（前月末は2．343%）。
欧州債券市場は、月前半、米国の金利上昇や地政学リスクの一服などを受けて、金利は上昇（価格は下落）しました。月後半は、ドイツの景況指数悪化やECBによる追加金融緩和観測の高まりなどから低下（価格は上昇）基調で推移しました。独10年国債利回りは、月末は0．947%となりました（前月末は0．890%）。
FRB（米連邦準備制度理事会）は、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．0～0．25%を維持しました。ECB（欧州中央銀行）は政策金利を0．10%引き下げ、年0．05%としました。

【外国為替市場】

米ドル／円相場は、月前半、米国の金利上昇や早期利上げ観測の高まりなどを受けて、大幅に円安が進行しました。月後半も、先行きの日米金利差の拡大が意識されたことや米国の実質GDP（国内総生産）成長率の上方修正などを背景に円安基調で推移しました。円は対ドルで前月末比5円71銭円安ドル高の1ドル＝109円45銭となりました（前月末比＋5．50%上昇）。
ユーロ／円相場は、月前半、ECBによる追加金融緩和を受けてユーロ売りが加速する局面もありましたが、地政学リスクの一服や日欧の金利差などを背景に円安となりました。月後半は、スコットランドの英国残留が好感されたことなどからさらに円安が進行した後、ECBによる追加金融緩和観測の高まりなどから円高基調で推移しました。円は対ユーロで前月末比2円11銭円安ユーロ高の1ユーロ＝138円87銭となりました（前月末比＋1．54%上昇）。

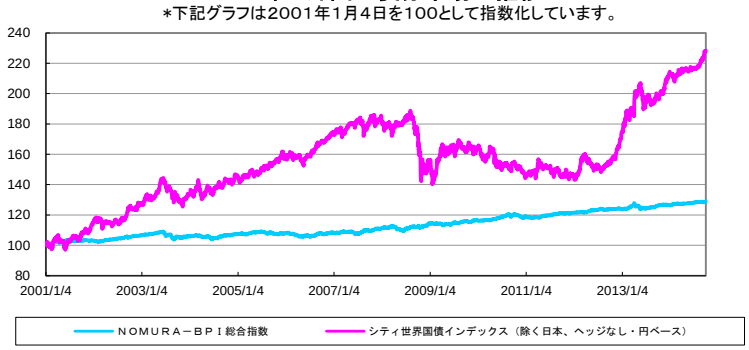
日本と外国の株式市場の推移

＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

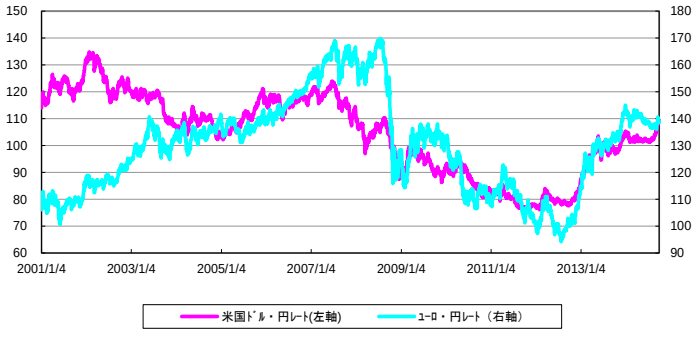


日本と外国の債券市場の推移

＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

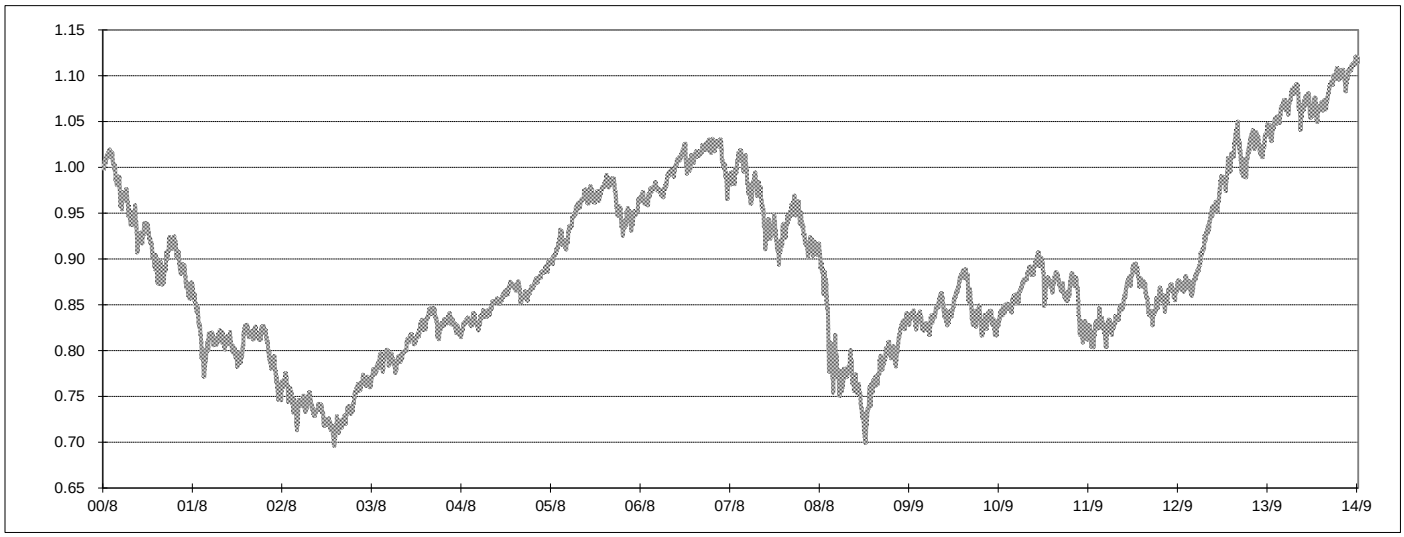
変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2014年9月 末日現在]

■特別勘定のINDEXの推移

※ 特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2014年9月末	2014年8月末	2014年7月末	2014年6月末	2014年5月末	2014年4月末
INDEX	1.115	1.106	1.105	1.099	1.081	1.065
	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
騰落率（%）	0.79	1.40	4.29	7.19	35.80	11.46

※ 特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1．00として計算しています。
※ 騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

■特別勘定資産の内訳

項目		金額（千円）	比率（%）
現預金・その他		1,748,322	4.1
その他有価証券		40,875,129	95.9
	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）	4,403,417	10.3
	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）	6,637,633	15.6
	アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）	6,977,967	16.4
	アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）	4,304,242	10.1
	アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B）	18,551,867	43.5
合計		42,623,451	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。
※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当月のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。
資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。（株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。）
今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

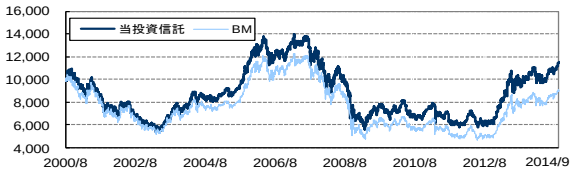
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年8月3日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	4.84%	5.65%	11.20%	12.97%	81.60%	13.79%
BM	3.78%	5.05%	10.26%	11.07%	74.24%	▲10.54%
差	1.06%	0.61%	0.94%	1.90%	7.36%	24.33%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年8月3日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）*1です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	マザーファンド
1	電気機器	12.98%
2	輸送用機器	12.40%
3	銀行業	9.53%
4	小売業	7.16%
5	情報・通信業	6.87%
6	化学	6.73%
7	卸売業	4.96%
8	医薬品	4.39%
9	その他業種	33.26%
10	現金等	1.73%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	マザーファンド
1	東京証券取引所第一部	98.27%
2	現金等	1.73%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.64%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.43%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.12%
4	日本電信電話	情報・通信業	2.11%
5	KDDI	情報・通信業	1.81%
6	ソフトバンク	情報・通信業	1.71%
7	本田技研工業	輸送用機器	1.58%
8	キヤノン	電気機器	1.31%
9	アステラス製薬	医薬品	1.26%
10	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.13%
合計			21.10%
組入銘柄数			262銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋4．84%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の騰落率は、前月末比＋3．78%となりました。当月の日本株式市場では、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた小売や移動体通信が上昇したことはプラス寄与しました。一方個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた名村造船所（7014）やKDDI（9433）が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた伊藤忠エネクス（8133）や日本電信電話（9432）が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

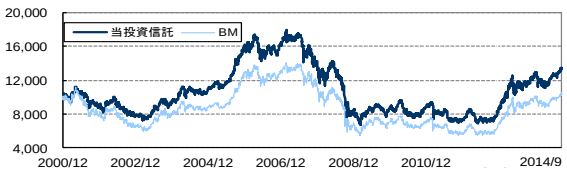
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	3.85%	5.55%	12.68%	14.19%	78.99%	32.90%
BM	3.78%	5.05%	10.26%	11.07%	74.24%	2.87%
差	0.07%	0.50%	2.43%	3.11%	4.75%	30.03%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）*1です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	マザーファンド
1	電気機器	12.32%
2	輸送用機器	9.77%
3	化学	7.99%
4	銀行業	7.93%
5	情報・通信業	7.58%
6	卸売業	6.50%
7	小売業	6.40%
8	医薬品	6.23%
9	その他業種	32.58%
10	現金等	2.70%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	マザーファンド
1	東京証券取引所第一部	94.82%
2	その他の市場	1.14%
3	ジャスダック証券取引所	0.97%
4	東京証券取引所第二部	0.36%
5	名古屋証券取引所第一部	0.01%
6	名古屋証券取引所第二部	0.00%
7	現金等	2.70%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.32%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.50%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.85%
4	日本電信電話	情報・通信業	2.40%
5	アステラス製薬	医薬品	2.17%
6	KDDI	情報・通信業	2.14%
7	キヤノン	電気機器	2.12%
8	日産自動車	輸送用機器	1.84%
9	三菱電機	電気機器	1.82%
10	東海旅客鉄道	陸運業	1.70%
合計			24.86%
組入銘柄数			142銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋3．85%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の騰落率は、前月末比＋3．78%となりました。当月の日本株式市場は、配当利回りの高い銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた通信が下落したことや、少なめに保有していた保険が上昇したことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた富士重工業（7270）やミネベア（6479）が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた住友商事（8053）や平和（6412）が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

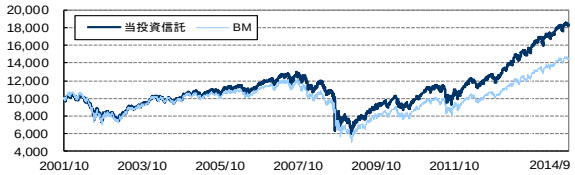
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲1.04%	0.98%	6.92%	18.57%	85.75%	82.87%
BM	▲0.97%	0.79%	6.34%	16.64%	68.85%	44.65%
差	▲0.07%	0.19%	0.58%	1.93%	16.90%	38.22%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数[*2]
　（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」（バリュー株）を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	ソフトウェア・サービス	12.57%
2	エネルギー	10.64%
3	医薬品・バイオテクノ・ライフ	9.89%
4	資本財	8.08%
5	テクノロジー・ハードウェア	7.75%
6	保険	5.11%
7	ヘルスケア機器・サービス	4.81%
8	各種金融	4.44%
9	その他業種	36.09%
10	現金等	0.61%
	合計	100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	3.97%
2	PFIZER INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.04%
3	INTL BUSINESS MACHINES CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.85%
4	EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	1.81%
5	GILEAD SCIENCES INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.70%
6	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.69%
7	ORACLE CORPORATION	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.50%
8	GOOGLE INC-CL A	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.44%
9	QUALCOMM INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	1.32%
10	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.29%
	合計			18.62%
	組入銘柄数			218銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲1．04%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）の騰落率は、前月末比▲0．97%となりました。当月の米国株式市場は市場の動きと連動した動きを示す銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた防衛関連が上昇したことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた資本財のRaytheon CoやLockheed Martin Corpが上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していたエネルギーのValero Energy Corpが下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

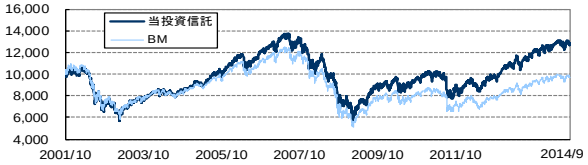
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲0.74%	▲1.41%	1.54%	8.15%	54.66%	26.90%
BM	▲0.48%	▲1.17%	0.57%	6.47%	40.16%	▲3.45%
差	▲0.25%	▲0.25%	0.96%	1.67%	14.50%	30.35%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数[*3]
　（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」（バリュー株）を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　国別構成比率

	国名	マザーファンド
1	イギリス	30.55%
2	フランス	14.30%
3	スイス	12.76%
4	ドイツ	12.72%
5	スペイン	6.28%
6	オランダ	6.26%
7	スウェーデン	4.47%
8	デンマーク	3.32%
9	その他の国	8.77%
10	現金等	0.57%
合計		100.00%

○　セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	医薬品・バイオテクノ・ライフ	12.64%
2	銀行	10.86%
3	食品・飲料・タバコ	10.23%
4	素材	8.74%
5	資本財	8.39%
6	エネルギー	7.12%
7	保険	6.86%
8	電気通信サービス	6.28%
9	その他業種	28.30%
10	現金等	0.57%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.30%
2	BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	食品・飲料・タバコ	2.22%
3	ASTRAZENECA PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.10%
4	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.10%
5	SIEMENS AG	ドイツ	資本財	1.95%
6	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.93%
7	ROCHE HOLDING AG-GENUSSS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.83%
8	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	1.75%
9	RIO TINTO PLC	イギリス	素材	1.51%
10	BHP BILLITON PLC	イギリス	素材	1.49%
合計				19.17%
組入銘柄数				197銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲0．74%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）の騰落率は前月末比▲0．48%となりました。当月の欧州株式市場は、企業規模の大きい銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた飲料・タバコが上昇したことや少なめに保有していた食品が下落したことはプラスに寄与しました。国別では下落したイギリスの銘柄を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた素材のBHP Billiton Plc（イギリス）が下落したことや、少なめに保有していた医薬品・バイオテクノ・ライフのNovartis Ag（スイス）が上昇したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

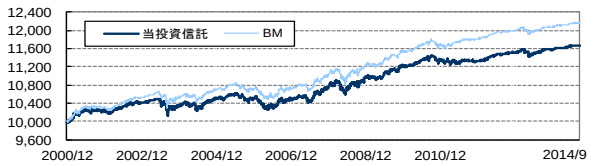
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2014年9月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2014年9月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、原則としてわが国の公社債に投資を行い、ベンチマークを中長期的にみて、上回る運用をめざします。外貨建資産に投資した場合は、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	0.00%	0.13%	0.49%	0.94%	3.01%	16.70%
BM	0.00%	0.10%	0.44%	0.95%	3.14%	21.63%
差	▲0.00%	0.03%	0.05%	▲0.01%	▲0.13%	▲4.93%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス（総合*4、中期3年以上7年未満）です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　資産構成

		修正デュレーション	マザーファンド
公社債		4.50 年	98.94%
	国債	5.36 年	72.35%
	地方債	0.00 年	0.00%
	特殊債・財投債	1.73 年	2.87%
	金融債	0.15 年	0.93%
	社債等	2.30 年	22.80%
	その他	0.00 年	0.00%
短期資産等*		0.00 年	1.06%
合計		4.46 年	100.00%

＊　債券先物を含みます。

※「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○　公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	84.75%
A	11.90%
BBB	3.36%
BB以下（無格付含）	0.00%
合計	100.00%

格付基準：
※ 海外格付機関の格付を優先します。
※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付 ムーディーズ	格付 S&P	マザーファンド
1	第303回利付国債（10年）	日本	1.400%	2019年9月20日	Aa3	AA-	8.41%
2	第326回利付国債（10年）	日本	0.700%	2022年12月20日	Aa3	AA-	6.32%
3	第106回利付国債（5年）	日本	0.200%	2017年9月20日	Aa3	AA-	5.76%
4	第305回利付国債（10年）	日本	1.300%	2019年12月20日	Aa3	AA-	5.39%
5	第322回利付国債（10年）	日本	0.900%	2022年3月20日	Aa3	AA-	4.83%
6	第330回利付国債（10年）	日本	0.800%	2023年9月20日	Aa3	AA-	4.69%
7	第109回利付国債（5年）	日本	0.100%	2018年3月20日	Aa3	AA-	3.24%
8	第315回利付国債（10年）	日本	1.200%	2021年6月20日	Aa3	AA-	2.96%
9	第295回利付国債（10年）	日本	1.500%	2018年6月20日	Aa3	AA-	2.92%
10	第298回利付国債（10年）	日本	1.300%	2018年12月20日	Aa3	AA-	2.92%
合計							47.44%
組入銘柄数							50銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○　ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	0.25%
平均クーポン	1.13%
平均残存期間	4.59

※「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋0．00%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス（総合、中期3年以上7年未満）は前月末比＋0．00%となりました。当月の当投資信託は前月からの戦略を維持し、ベンチマーク並みの結果となりました。当月は円安が進行したため、その影響で業績改善がされるとの期待から外需株を中心に株高となり、これを受けて利回りが上昇しました。当月末の日本10年国債の利回りは前月末比0．035%上昇の0．525%となりました。
委託会社は、景気の回復や国内の年金基金による国内債券市場を上回るリターンを求める機運の高まり等を背景に、日本国債の利回りには上昇圧力がかかる可能性があるものの、日銀の緩和策により圧力は弱められると予想しています。。今後の当投資信託の方針として、デュレーション戦略では今後しばらくベンチマーク並みの水準とし、種別戦略ではベンチマーク対比での国債の少なめの配分と非国債の多めの配分を維持する予定です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険

用語説明

＊1「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S＆P500種株価指数」とは、スタンダード＆プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は
スタンダード＆プアーズ社に帰属しています。S＆P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、S＆P500種株価指数（米ドルベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、MSCI欧州株価指数（ユーロベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス（総合）」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、
金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

○変額保険の仕組み
変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。
*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

○変額保険のリスクについて
①市場リスク
特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額（有期型の場合、満期保険金を含む）や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク
万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

契約月別の運用実績の例

（一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合）

契約日	終身型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成12年　8月　1日	1,000	−491	11.46	0.77
平成12年　9月　1日	1,000	−499	9.81	0.67
平成12年　10月　1日	1,000	−477	12.95	0.87
平成12年　11月　1日	1,000	−458	15.51	1.04
平成12年　12月　1日	1,000	−437	18.45	1.23
平成13年　1月　1日	1,000	−418	21.07	1.40
平成13年　2月　1日	1,000	−429	18.86	1.27
平成13年　3月　1日	1,000	−394	23.94	1.59
平成13年　4月　1日	1,000	−373	26.72	1.77
平成13年　5月　1日	1,000	−396	22.68	1.54
平成13年　6月　1日	1,000	−388	23.44	1.59
平成13年　7月　1日	1,000	−375	25.15	1.71
平成13年　8月　1日	1,000	−348	28.84	1.94
平成13年　9月　1日	1,000	−310	34.37	2.28
平成13年　10月　1日	1,000	−262	41.24	2.69
平成13年　11月　1日	1,000	−278	38.34	2.54
平成13年　12月　1日	1,000	−283	37.06	2.49
平成14年　1月　1日	1,000	−282	36.64	2.48
平成14年　2月　1日	1,000	−255	40.37	2.71
平成14年　3月　1日	1,000	−261	38.81	2.64
平成14年　4月　1日	1,000	−275	36.28	2.51
平成14年　5月　1日	1,000	−267	36.88	2.56
平成14年　6月　1日	1,000	−269	36.09	2.53
平成14年　7月　1日	1,000	−232	41.36	2.87
平成14年　8月　1日	1,000	−197	46.26	3.17
平成14年　9月　1日	1,000	−194	46.26	3.20
平成14年　10月　1日	1,000	−165	50.42	3.46
平成14年　11月　1日	1,000	−161	50.40	3.48
平成14年　12月　1日	1,000	−174	47.79	3.36
平成15年　1月　1日	1,000	−146	51.67	3.61
平成15年　2月　1日	1,000	−120	55.29	3.84
平成15年　3月　1日	1,000	−113	55.90	3.91

契約日	終身型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成15年　4月　1日	1,000	−108	56.09	3.95
平成15年　5月　1日	1,000	−123	52.90	3.79
平成15年　6月　1日	1,000	−136	50.28	3.66
平成15年　7月　1日	1,000	−153	47.12	3.49
平成15年　8月　1日	1,000	−161	45.25	3.40
平成15年　9月　1日	1,000	−168	43.64	3.32
平成15年　10月　1日	1,000	−169	43.00	3.31
平成15年　11月　1日	1,000	−178	41.05	3.20
平成15年　12月　1日	1,000	−173	41.27	3.24
平成16年　1月　1日	1,000	−183	39.36	3.14
平成16年　2月　1日	1,000	−192	37.38	3.02
平成16年　3月　1日	1,000	−202	35.44	2.91
平成16年　4月　1日	1,000	−213	33.27	2.77
平成16年　5月　1日	1,000	−210	33.21	2.79
平成16年　6月　1日	1,000	−199	34.37	2.90
平成16年　7月　1日	1,000	−208	32.56	2.79
平成16年　8月　1日	1,000	−190	34.71	2.97
平成16年　9月　1日	1,000	−188	34.45	2.98
平成16年　10月　1日	1,000	−186	34.23	2.99
平成16年　11月　1日	1,000	−181	34.53	3.04
平成16年　12月　1日	1,000	−190	32.76	2.92
平成17年　1月　1日	1,000	−202	30.54	2.77
平成17年　2月　1日	1,000	−199	30.40	2.78
平成17年　3月　1日	1,000	−210	28.35	2.64

注（1）保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

（2）契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成26年9月末までの運用実績を示したものです。
なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

（3）年複利は契約月別運用実績を年複利換算したものです。

（4）終身型は、平成17年3月31日で販売終了しています。

（5）有期型は平成14年10月31日で販売終了しています。平成24年10月31日で全ての契約が保険期間を満了しました。